

市政ニュース

「とよおか集落元気回復サミット」を開催 持続可能な集落づくりのために地域力を高める



▲意見交換を行う活動発表者ら

市では、人口減少や高齢化の進展などによる集落機能の低下に対応するため、集落の自主的な取り組みを支援し、集落の維持および活性化を図っています。

3月13日、地域の特性を生かした活力ある地域づくりを推進する契機とするため、市民ら約120人が参加して「とよおか集落元気回復サミット」を開催しました。

当日は、集落の活動発表の後、地域再生研究センターの井原友建さんがコーディネーターを務め、活動発表者と中具市長がパネリストとなり、

集落の地域力を高めるため、意見交換を行いました。

参加者からは、「これまで知らなかった集落の活動は参考になりました」「チクタクの取組みに関心があります」と活動に対する意見が出されました。

集落の課題は多くありますが、その地域の方が元気で前向きであることが地域の魅力を高めるものと感じられました。

【活動発表】

○田結集落

「わかめまつり」と「コウノトリ舞う湿地」の里づくり

○竹野町三原集落

あきらめないで未来を開く
「いきがいくくり」「ふれあいくくり」の里

○日高町小河江集落

都市住民との交流による「ふるさとむら小河江」の推進

○出石町奥山、和屋、榎見集落

乗合タクシー「チクタク奥山」を集落住民で運営

子どもの体・脳・心を育む親子の「お散歩」 豊岡市親子運動遊びパンフレット(乳幼児版)発行

市では、子どもたちが心身ともに健やかに成長できるように幼児期における運動遊び事業を推進・展開しています。

すでに3歳児を対象とした豊岡市親子運動遊びパンフレットを作成しています。このほど、乳幼児を対象としたパンフレットを作成しました。

このパンフレットは、3



▲乳幼児版パンフレット

市民の皆さんと力を合わせて 東北地方太平洋沖地震の被災地を支援

市では、3月11日午後に起きた東北地方太平洋沖地震の被災地に向けて、同日夜、緊急消防援助隊第1次隊を派遣しました。

また、12日には、市が保有するビニールシート100枚を送りました。

さらに、14日早朝には、消防第2次隊と水道給水部隊が東北に向かって出発しました。

市では、被災地支援検討会議を開催し、今後、事態の推移に合わせて、必要な人員派



▲3月14日、緊急消防援助隊第2次隊出発式

遣と物資の提供を行うことを決定し、市役所本庁・総合支所などに募金箱を設置し、義援金を呼び掛けています。

主な市政の動き

【2月】

20日 とよおか環境・防災フォーラム
21日 城崎地域豪雪災害警戒本部廃止（22日：竹野・但東地域、28日：日高地域・豊岡市（本庁）廃止）

22日

「一人ひとりを包摂する社会」特命チーム会議（東京都・総理官邸）で、市税務課の取組み発表

23日

中国浙江省庵東鎮研修団来訪（24日）

24日

豊岡市エコハウス暮らしの講座

25日

市議会開会（3月24日）

今年初のコウノトリの産卵確認

【3月】

11日

緊急消防援助隊第1次隊派遣（14日：同第2次隊、給水部隊派遣）

12日

新型特急車両「こうのとり」の「さき」運転開始

13日

とよおか集落元気回復サミット

春の季節便り

コウノトリのヒナの誕生を楽しみに

祝 今年初のコウノトリの産卵!

2月25日、百合地の人工巢塔で、今年初のコウノトリの産卵が確認されました。

この巢塔には、平成18年に放鳥された10歳の雄と12歳の雌のペアが今年も営巣しています。2月に入り繁殖行動が頻繁に見られ、交代で卵を抱くような姿勢をとっていたため、県立コウノトリの郷公園

の職員が高所作業車で観察し、6個の卵を確認しました。

このペアは、平成19年に、自然界で46年ぶりとなるヒナを巣立たせたのをはじめ、これまで7羽のヒナを巣立たせています。今年で5年連続の産卵となり、順調にいけば3月下旬にかけて、ヒナが誕生する見込みです。



▲巣の中で卵を守る雌のコウノトリ

中国浙江省との交流

コウノトリを介した国際協力!

県と市では、NPO法人食と農の研究所(神戸市)を事業実施機関とし、中国浙江省の農村環境改善につなげる国際貢献事業を、JICA(独立行政法人国際協力機構)の支援により実施しています。

浙江省では、20世紀半ばまで多くのコウノトリが越冬していました。しかし、都市開発などにより現在、渡りが途絶えており、こうした事業を通じての環境改善を期待しています。昨年8月には中国での現状調査を実施し、このた

び2月23・24日に中国研修団を本市に受け入れました。

研修団は、コウノトリ育む農法の概要や市の環境教育の取組みを学んだ後、「環境教育グループ」と「農業グループ」に分かれ、現地視察と関係者との意見交換を行い、今後の方向性を検討しました。

今夏には、本市の農業者と教職員が浙江省庵東鎮を訪問して現地の農業者と技術交流を行い、「コウノトリ育む農法」の精神を持った農業リーダーの育成を進めるとともに、小



▲農業者との意見交換風景

学校で環境学習を展開します。市では、今後も交流を深め、知識・技術の提供を継続しながら、コウノトリを介した国際貢献を進めます。

中貝市長の徒然日記 ④

1千万円の札束

数年前。予算査定中に、突然、市民生活部長と税務課職員が入ってきました。「市長、1分だけ時間をください」部長は封筒から何やら取り出し、トンと私の目の前に置きました。「1千万円あります」「ど、どうしたの、これ?」「差し押さえていた土地が、売れました」「おお!」

この取組みは2月21日、NHKの「あさイチ」で放送され、大きな反響を呼びました。さらに翌22日には、担当係長が首相官邸に招かれ、政府関係者に発表をするという事態にもなりました。

査定室にいた全員が一斉に声を上げました。

この取組みは2月21日、NHKの「あさイチ」で放送され、大きな反響を呼びました。さらに翌22日には、担当係長が首相官邸に招かれ、政府関係者に発表をするという事態にもなりました。

財政課長は、と見ると、ほころんだ顔で「ありがとうございます!」とびよこんと頭を下げています。

以前、市は税の滞納処理がずさんだと強い批判を受けました。当時、県の財務事務所長の研修を何度も受けさせ、県税務課に職員の研修派遣をばせようと、わざわざ現金を見せにやって来た職員たち。うれしい出来事でした。

税の徴収は、さらに進化を遂げています。滞納者の中には多重債務に苦しんでいる方

があります。それを聞き出し、生活相談員につなぎ、さらに司法書士などと連携して過払い利息をサラ金から取り戻す。本人に代わって市がサラ金相手に裁判を起こした例もあります。この3年間で取り戻した額は4億3千万円。そのうち市税に充当した額は1億9百万円。残りは本人の手に。滞納者の生活も変わりました。

